

【2024 年度 決算の概要】

『資金収支』について

単年度における資金収入は、多くの収入科目で予算を若干ながら上回ったことから、対予算比では 49 百万円（対前年比+266 百万円）上回る結果となった。資金支出は、人件費・教育研究経費・管理経費支出等、殆どの支出科目で予算を下回ったことから、対予算比では 124 百万円（対前年比+134 百万円）下回る結果となった。その結果、当該年度における収支は対予算比で 172 百万円増加し 369 百万円の収入超過となった。なお、教育研究経費・施設関係支出において、本来であれば二次補正予算に計上すべきところ令和 6 年能登半島地震による施設設備復旧等未計上な事業があったことから、予備費を計上している。

○資金収入

学生生徒等納付金収入は予算どおりの結果となった。手数料収入は志願者数が見込みより増加したことから、また寄付金収入は特別寄付金収入が増加したことから、予算を上回る結果となっている。補助金収入は公定価格の改定に伴う施設型給付費収入の増加（32 百万円）等があった結果、予算を 37 百万円上回った。付随事業・収益事業収入は、外部試験の受験者減少により予算を下回った。雑収入は施設外部貸出の増加等により予算を上回った。

○資金支出

人件費支出は、超過勤務手当の減少等により予算を 27 百万円下回ったが、対前年比では 167 百万円増加した。教育研究経費・管理経費支出は、授業運営費及び光熱水費が想定を下回ったこと等から予算を 94 百万円下回った。なお、教育研究経費・管理経費・設備関係支出合計で 80 百万円の予備費を使用している。

『事業活動収支』について

事業活動収入計において予算を上回ったことに加え、事業活動支出計において経費が大きく減少したことにより、基本金組入前当年度収支差額は大幅に増加した。

○教育活動収支

資金収支同様であるが役員退任慰労金の支給に備えるため新たに役員退職給与引当金を計上（予算比:20 百万円増）した。

○教育活動外収支

ほぼ予算どおりとなった。

○特別収支

施設設備更新等に伴う除却により、資産処分差額（支出）が大幅に増加したことにより収支差額は予算を下回った。

○基本金組入前当年度収支差額

収入の増加と支出の減少により、予算を大きく上回る収入超過となった。

○基本金組入額合計

基本金組入済の施設設備の除却や高校寄宿舎（運動部寮）の解体等を行ったが、新たな施設設備の取得価額を繰り入れたことにより組入額は増加した。

『貸借対照表』について

当年度末においては、資産の増加と負債の減少により純資産が 362 百万円増加となっている。

○資産の部

固定資産においては、新キャンパス用地造成費による土地の増加、その他の有形固定資産は減価償却実施により減少となっている。また、特定資産は繰入を行い増加となっている。その他の固定資産は、長期前払い金が増加したものの、積立保険金の解約等により減少となっている。流動資産は、現金預金・未収入金・前払金の増加により増加している。

○負債の部

固定負債は、返済計画に基づく長期借入金の返済、退職給与引当金の減少により対前年比減少した。なお、今回決算より役員退職給与引当金を計上している。流動負債は未払金が増加したことにより対前年比増加した。

○純資産の部

第 1 号基本金は、当年度取得の施設設備（現物寄付・除却を含む）、借入金返済（大学グローバル館・中高総合寮）により増加（基本金明細表参照）。第 2 号基本金は、組入計画に基づく繰入を行い増加となっている。第 4 号基本金は増加した。

繰越収支差額は、152 百万円の減少となった。これらにより、純資産の部合計は前年度より 362 百万円増加している。